



関ロータリークラブ

RI会長 / バリー・ラシン

2018-19年度 国際ロータリーテーマ
インスピレーションになろう “Be The Inspiration”

53代会長 / 加藤浩二

2018-19年度 関ロータリークラブ会長テーマ
行動しよう! 情熱を持って

会長 加藤 浩二
副会長 大岩寿喜子
幹事 林 昇

D2630 ROTARY CLUB OF SEKI WEEKLY REPORT

Rotary



本日のプログラム 第 2545 回例会 2019 年 6 月 11 日 (火)

「関市スポーツ推進委員会の活動について」

関市スポーツ推進委員会 会長 大野照美様



前例会の記録・第 2544 回 6 月 11 日(火)12:30

「小瀬の鵜飼は守れるか

転換期を迎える “食料安全保障”」

共同通信社 岐阜支局長 石井勇人様

◆開会点鐘

◆「君が代」「奉仕の理想」斉唱

◆会長挨拶



本日のお客様は共同通信社 岐阜支局長の石井勇人様です。

本日は「小瀬の鵜飼は守れるか 転換期を迎える食料安全保障」という我々関市民では関心があり深刻なお話を頂けます。よろしく申し上げます。

さて、私のお話しですが、今日は集中力について少しお話しします。興味深く集中している状態だと、人は多くの仕事をこなせるようになります。しかも、集中している状態の時に仕上げたものは質も高く、達成感も大きくなります。集中している状態にもさまざまな程度がありますが、最も極限まで集中している状態のことをハイパーフォーカスと言うそうです。世界的に有名な画家やミュージシャンなどはこのハイパーフォーカスの状態で創作をしていると言われており、人間が持つ潜在的な能力をも引き出すことができるそうです。現代の我々の仕事は IT に関わる仕事はかなり占めています。この作業や仕事は、集中力の入り方、やる気、雑念、疲れなどでかなり作業効率も左右されます。集中力さえあれば、1 時間で終わるような作業が 1 日かかってしまう事も経験あると思います。反面、早朝の 1 時間、若しくは社員が帰った夜の 1 時間の集中力が増した時は、その日の

半日分の仕事が出来たりする事もあります。どうすれば高い集中力とパフォーマンスを維持できるのかを調べてみました。高い集中力とパフォーマンスで活躍する人、または経営者は運動の習慣を身につけているそうです。つまりは体力をつけているということです。毎朝起きて、体をストレッチすることで、1 日体が軽く感じられ、またストレッチで体をほぐすと体の不快感が消え集中力も上がります。食事も効果的です。規則正しく食事を取り、決して過食はしないこと、そして睡眠も重要で、基本的に 7 時間平均して取るようにし、特に質の良い睡眠を心がけることで、日中のパフォーマンスが劇的に上がります。

更に手っ取り早い方法がありました。サプリメントです。特にアミノ酸サプリの BCAA が良いらしく、脳内ホルモンを良い環境に整えるそうです。そのサプリを摂取する事で筋トレ効果で放出される脳内物質を直接的に作用させることと同じくらい効果が得られるそうです。日夜自分の仕事に没頭して廃人一步手前くらいまで仕事に向き合っている方、筋トレすら面倒なので手っ取り早く集中力を上げたい方試してみてください。

◆委員会報告

◎出席委員会 委員 宮本卓比郎

会員 51 名中 出席 28 名 出席率 57.15%

◎ニコボックス委員会 委員長 小原昌浩

会長・副会長・幹事の皆さん・・・共同通信社 岐阜支局長 石井勇人様ようこそ関 RC へ。大変お忙しい中、卓話をお引き受けいただきありがとうございます。食料安全保障について、今一度勉強させていただきます。よろしく申し上げます。

清水(善)、加藤(照)、小原、後藤、土屋、三輪の皆

さん・・・共同通信社 岐阜支局長 石井勇人様
食料安全保障の卓話楽しみにしております。よろしくお願いたします。

加藤浩二さん・・・6月2日の私の長女の結婚式に対してクラブより祝電をいただきました。誠にありがとうございました。

◆「小瀬の鵜飼は守れるか

転換期を迎える“食料安全保障”

共同通信社 岐阜支局長 石井勇人様



食料や農業をめぐる国際的な状況は大きな転換期を迎えている。世界の人口は増え続け2050年には98億人を超える見込みだ。飢餓人口は3年連続で増加して8億人を超

え、さらに中国など新興国では経済成長に伴って肉類の消費が増え飼料となる穀物の増産が必要になる。増大する需要に見合う供給が可能なのか。人口の都市集中が加速し、農地と農家が減少し、水や燃料など農業に必要な資源の確保も難しくなっている。さらに日本は、少子高齢化に伴う労働力不足や国内市場の縮小という深刻な課題を抱えている。

▽食料不足はいつでも起きる

飽食に慣れきってしまいお金さえ出せばいつでも何でも食べられると感じている人が多く、宴会などでは大量の食べ残しが出る。しかし、食料不足はいつでも、どこでも発生する。日本が食料危機に陥ったのは終戦直後だけではない。1993年に大冷害でお米が不作となり、タイから緊急輸入したことがある。これによりお米の国際相場が急騰してタイの食料価格を押し上げた。食料不足は、常に貧しい人たちを直撃する。現在の日本でも、閉店間際のスーパーで半額シールが貼られるのを持つ人が列を成し、貧困層の増大で満足な食事ができない子どもも増えている。経済のグローバル化が進む中で、食料安全保障について真剣に考え直す時期を迎えている。

▽安倍政権の検証

安倍晋三政権の農業政策の源流は、2003年秋に「農業鎖国はもう続けられない、農業構造改革は待ったなしだ」と改革路線を鮮明にした小泉純一郎政権にさかのぼる。「小さな政府」を信奉し、規制緩和と貿易・投資の自由化をセットにした政策は、農村などで強い反発を招き、08年の

政権交代につながった。さらに12年末、自民・公明両党が政権を奪還し、農業政策は右往左往した。安倍政権は、農協に改革を迫り、「減反」を廃止、経営規模を拡大するため農地中間管理機構を整備するなど、農業分野の構造改革を進めている。これらの評価は割れるだろう。しかし国際潮流に目を向けると、08年のリーマン・ショックをきっかけに、ほとんどの国で、過度な規制緩和や経済のグローバル化の副作用に対する反発が強まっている。それを象徴するのが米国の環太平洋連携協定(TPP)脱退や英国のEU離脱だ。

▽地域から見直す

農業政策は息の長い、そして幅の広い視野から議論する必要がある。グローバル化や規制緩和一辺倒ではなく、社会的・経済的な弱者や歴史的・文化的な価値など守るべきものを慎重に見極める必要がある。一度壊されたら復元が難しいからだ。例えば、小瀬の鵜飼いはなくなってもよいのか。食べ物は自動車を輸出して稼いだお金で買えばよいのか。日本の農林水産業の縮小が続いてもよいのか。身近な課題について、自分自身の頭で考えて見極めることが重要だ。

共同通信社

編集委員兼岐阜支局長 石井勇人(いしいはやと)
岐阜市出身、東京大学文学部卒、1981年に社団法人共同通信社入社、ワシントン支局、経済部次長、前橋支局長、編集委員室次長兼論説委員を経て2018年2月から岐阜支局長兼編集委員。2015年から「農政ジャーナリストの会」会長。著書に「農業超大国アメリカの戦略」(新潮社)、共著に「亡国の密約 TPPはなぜ歪められたのか」(同)、「進化する日本の食 農・漁業から食卓まで」(共同通信社)など多数。

◆幹事報告

◎例会終了後、「臨時・理事、役員会」開催

◎通常総会のご案内

日時：7月6日(土) 17:30

場所：だいえい

次例会のご案内 6月18日(火) 12:30

「教える・説得する」

元・関消防署 署長 藤田哲也様

例会：毎週火曜日 12:30
例会場：岐阜県関市本町6-20 大垣共立銀行関支店2F
事務局：岐阜県関市平和通7-10-25 アメリカ2F